

飛島のイブキ

飛島は、この場所から見て大鳴門橋のすぐ右手にある、小さな島で、常に鳴門の渦により侵食されています。島の小ささを強調する、ロウソクのような灯台が目を引く孤島 飛島は、鳴門海峡の自然をさらに美しいものとしています。この島では、ジャクシン属の植物であるイブキが多く生育しています。この希少植物の存在により、この島は徳島県の天然記念物に指定されました。

イブキは日本の4つの主要な島のうち3島（本州、四国、九州）でまばらに生育していますが、飛島では、島の稜線の周りに群生しているのが見られます。この種が日本列島のこれほど北で、特にこのような数で生育することはあまりありません。この地で生育する植物は全て、激しい風と渦が叩きつけるのに耐えるため、頑丈でなければなりません。この植物は灰色っぽい見た目で、しばし不均一な形をしており、その見た目と同じくらい頑強です。昔、地元の漁師は、漁網の取っ手やその他の用具を作るのに、この頑丈な枝を使っていました。